



と ころ 戸 高 だ よ り

福岡県立戸畑高等学校

令和7年度第4号

令和7年6月2日

校長 岡本美加

「不易流行」 ～ 伝統の中の革新 ～

本校第1回文化祭は、旧制中学校最後の年である昭和22年11月14日に行われました。この頃の「戸畑中学新聞」に次のような記述があったと記録されています。

「本校文化部では、情趣豊かな、そしてスポーツに快適のこのグラウンドに於(おいて)、全生徒各自の個性を伸ばさしめ、而(しか)して文化人として他校に誇るべき中学生の実力を具(そな)えしむるべく、一大文化祭を計画立案中である。(中略)各項目に亘(わた)って盛大に行い、そうして又一般市民も大いに歓迎し、高等学校に成らんとする本校の内容なり実相なりを見ていただくのである。」

終戦後、昭和22年3月3日に「教育基本法」「学校教育法」が公布され、学校体系が六・三・三・四制の編成に改められ、旧制戸畑中学校から新制戸畑高等学校へ移行するという、大きな変化の時期でした。新時代を創るのだという当時の戸高生の意気込みが感じられます。一人ひとりが個性を発揮し、協力しながら形にしたものを、地域の方に見ていただくという戸高祭の基本姿勢は変わりません。

「不易流行」とは、俳聖と言われる松尾芭蕉が「不易を知らざれば基立ち難く、流行を知らざれば風新たにならず」と説いた俳諧の理念です。「時代を超えて変わらない価値のあるもの」(不易)と「社会の変化に応じて変えていく必要があるもの」(流行)はどちらも欠かせないものであるとして、普遍性と多様性をバランスよく捉えています。

来年度には創立90周年を迎える戸畑高校の戸高祭においても、本校のこれまでの歩み「不易」を大切にしながら、学びあい、新たな価値「流行」を創り出してくれるものと期待しています。そのためにも、各文化部や委員会、クラス等で、とことん話し合い、意見をぶつけ合うことをとおして、合意形成に至る過程をおおいに経験してください。今ここで、時間と場所を共有している仲間とともに、この機会を謳歌し、それを支えてくださっている方々への感謝を忘れないでほしいと思います。

加えて、戸高生として自信を持って地域の方々にお披露目できる内容であるか、検証を重ね、納得いくまで精度を高めてください。「戸畑」という地名を冠した高等学校である本校には、「文教のまち」戸畑にふさわしい地域の教育活動を牽引する存在であるという役割があります。本校の魅力を自分の力とし、それぞれの地域で発信してください。本校の「不易」である「自主・調和」の校風を重んじながら、新たな価値を創造する「流行」に挑戦する戸高祭としましょう。

戸高列伝 2

54回生 富永 裕輔 氏



「人の想いを歌にして繋ぐ」シンガー・ソングライター。北九州市文化大使、築上町観光大使、八王子観光 PR 特使としても活躍されています。早稲田大学の先輩でもある元福岡ソフトバンクホークスの和田毅投手の登場曲三部作を制作。築上町で開催される二人のトークショーのチケットは発売当日に完売したとのこと。

高校2年生の時の戸高祭で、The Beatles の Let it Be をピアノで弾き語りをして大喝采を受けたことが、歌手を志したきっかけだったそうです。

* お知らせ *

この「戸高だより」の題字と校名等を書道部3年生が揮毫してくれました！

「戸高だより」
「一生懸命がかっこいい」
小川 彩音さん
「福岡県立戸畑高等学校」
西本 優里さん

勉学も部活動も学校行事も

一生懸命がかっこいい